

私はお客さまに「ちそうず」るのが大好きです。「ご飯食べた？」というのが口癖です。これは田舎の貧しかった時代の先人たちの「おもてなし」の心が私のDNAにも受け継がれているからかもしれません。日本全国に子ども食堂が増えていますが、子どもの貧困問題は国が抜本的な対策を行うべきで、民間の私た

# 東北復興日記

まだまだ

▶▶▶ 194

ベテランママの会代表  
番場さち子さん



## 「おやこ食堂」で心も満腹に

ちができることには限りがあります。まして福島県南相馬市の場合、ほかの地域とは明らかに異なった問題が顕在化しています。

東日本大震災から五年半。

精神と肉体の両面でダメージを受けている人、母子が避難して単身赴任しているお父さん、若い家族と離れて高齢者だけになった老夫婦、除染や廃炉作業に従事している方々。満足に落ち着いて家庭料理を食べていないという人も少なくありません。「ベテランママの会では料理は教えてくれないの？」と若いママか

ら質問を受けた時、とっさに思いついたのが「おやこ食堂」＝写真＝です。

みんなで作ることは料理の勉強にもなりますし、食育指導士の資格を持っている私が栄養の大切さのうんちくを語ることもできます。学生は、大人たちの接客をすることで、おもてなしの仕方やマネーが学べ、孤食や偏食、コンビニ弁当だけの食事からの脱却も図れます。何より多世代が同じ場所集まり、おしゃべりしながら一緒にご飯を食べるといことは、心の面での効果も期待できます。

先月のおやこ食堂では、女子中学生が奮闘しました。おからや豆腐を混ぜ込んだハンバーグを、準備から調理まで全て一人でこなし、参加者のおじさんたちからは、形もかわいいうんち形でヘルシーなのが、大絶賛されました。きっと彼女にとっても忘れられない一日となったことでしょう。私たちができることは一緒にご飯を作って食べることに。それだけで人は幸せな気持ちになれると思っと思っています。そこから心の復興が始まると期待しています。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

